

令和元年6月17日現在

機関番号：33925

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26284074

研究課題名(和文)日本語ライティング評価の支援ツール開発：「人間」と「機械」による評価の統合的活用

研究課題名(英文) Development of a New Toolkit to Aid in Assessment of Writing in Japanese: An Integrated Approach Utilizing Human and Machine Evaluation

研究代表者

田中 真理 (Tanaka, Mari)

名古屋外国語大学・外国語学部・名誉教授

研究者番号：20217079

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：人間によるライティング・パフォーマンス評価と機械学習に基づく自動レベル推定とを融合させることにより、L2としての日本語ライティング教育・評価のウェブベース支援ツール、GoodWriting Raterを開発した。これは、比較・意見(論証)のライティングを入力すると「ホリスティック」「目的・内容」「構成・結束性」「日本語」のトレイト別自動レベル判定、テキスト情報の提供、メタ言語のハイライトを行う。サイトには、レベル別サンプル、評価用フローチャート等を公開している。本研究は、国内外の教師のライティング評価、フィードバックへの支援とともに、日本語ライティングの汎用的なレベル基準の確立にも貢献しうる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル人材教育が進む中、パフォーマンス能力評価は不可欠である。しかし、OPI等の評価システムが広く普及しつつある口頭能力に比べ、ライティング能力に関しては評価の枠組み自体が曖昧である。その現状を、オンラインの自動評価システムの開発、公開により一歩前進させたと言える。

人間のパフォーマンス評価を機械に学習させ、自動評価システムを構築したのは日本語教育では初の試みである。人間の評価には信頼性、時間面で限界があり、機械はオリジナリティ等を評価できない。しかし、両者を統合することで即座に大量のデータの評価やテキスト情報提供が可能となる。自動評価システムは、今後大規模テストの開発にも有効である。

研究成果の概要(英文)：GoodWriting Rater, a web-based support tool for Japanese as a second language writing education and evaluation, has been developed by combining human writing performance evaluation with automatic estimation of writing levels using a machine learning approach. When an essay of the “comparison and opinion/argumentation” type is inputted, our system carries out automatic level classification according to the multiple traits of “holistic,” “purpose & content,” “organization & cohesion,” and “Japanese proficiency,” providing detailed analysis of text information and highlighting meta language used within the text. Sample essays of different levels and evaluation flowcharts are available on our website. In addition to supporting writing evaluation and feedback of teachers in Japan and overseas, it will also contribute to establishing a standard of Japanese writing levels.

研究分野：日本語教育，第2言語としての日本語ライティング，ライティング評価

キーワード：ライティング評価 自動評価 機械評価 パフォーマンス評価 マルチプルトレイト評価 第2言語としての日本語 フローチャート メタ言語

1. 研究開始当初の背景

(1) グローバル人材育成が求められる中、パフォーマンス能力(スピーキングやライティングの能力)が重視されつつある。スピーキングに関しては、OPI(Oral Proficiency Interview)という発話能力を測定する公的プロフィシエンシー・テストがあり、評価システムも広く普及しつつあるが、ライティングに関しては、評価の枠組み自体が不在だという状況であった。日本語能力試験にはパフォーマンス能力を測るテストは準備されておらず、日本留学試験には「記述問題」があるが、これは大学入試に特化しており、一般的なプロフィシエンシー・テストではない。

パフォーマンステストの採点には、いくつかの問題がある。人間による評価の限界(評価者内信頼性、評価者間信頼性)は既に多くの研究で指摘されているところである(Hamp-Lyons, 2007; MacNamara, 2000 他)。また、人間による評価には時間がかかる。一方、機械は言語面に関しては計量的にぶれなく測定し、結果も瞬時に出すものの、内容面、構成面、表現面などのオリジナリティを測ることは難しい。以上のような点から、人間と機械、それぞれの利点を生かした評価法を検討する必要がある。また今後の言語教育、特に大規模テストの開発に自動評価システムは不可欠だと考えられる。

(2) ライティング能力に関しては、アカデミック・ライティングという点から、「意見文」(論証モード)を書くための教育や研究は進んでいるが、それ以外のレトリカル・モード(モード)の教育や研究は進んでいない。田中・阿部(2014)(5の図書)では、アカデミック・ライティングの中にも、「ナラティブ」「描写」「説明(手順・過程、定義、分類・例示、比較・対照、原因・結果)」「論証(意見)」等のモードが使われることを指摘し、それらについての日本人大学生のサンプルを示している。本科研では、これを参考に、第2言語としての日本語のモード別ライティング・サンプルを作成し、公開することを考えた。そして、アカデミック・ライティングやテストの設定で、最もよく使われる「比較と意見(論証)」とともに、これまでアカデミック・ライティングとしては注目されてこなかった「ナラティブ」「描写」のデータも収集、分析することにした。

2. 研究の目的

1の背景に述べたような状況から、本科研では、以下の(1)(2)を目的として設定した。最終的には、日本語教育におけるライティングのモード別の汎用的なレベル基準を確立することを目的としており、そのためには、(1)や(2)のオンライン公開が必須である。

(1) 本科研では、これまでコーパス等であまり公開されておらず、それゆえ中国や韓国等の学習者のライティングに比べると分析が進んでいないヨーロッパの学習者のライティングに焦点を当てる。さらに、アカデミック・ライティングを「意見文」や「論証」モードのライティングのみと捉えず広く解釈し、「ナラティブ」や「描写」のライティングも収集する。そして、これまでの科研の Good Writing 研究を基盤に、それぞれのモードの評価基準・評価方法を検討し、レベル別サンプルをオンラインで公開する。評価基準のみでは抽象的な記述になるため、各レベルのベンチマークとなるサンプルが有効だと考えるからである。

(2) 人間によるライティング・パフォーマンス評価と機械学習に基づくライティング・レベル自動推定とを融合させることによって、第2言語としての日本語ライティング評価及びライティング教育のウェブベースの支援ツールを開発する。

本ツールは、アカデミック・ライティング教育、テストにおいて最も活用範囲が広いと思われる「比較・意見(論証)」のライティングを対象とし、ホリスティック評価、マルチプルトレイト評価での自動レベル判定、テキスト情報の提供、使われたメタ言語のハイライトを行う。科研のサイトには、「レベル別サンプル」「評価用フローチャート」等を公開し、国内、海外の教師のライティング評価、フィードバックを支援することを目的とする。効果的に活用してもらうために、ライティング評価や自動評価システム活用法のワークショップを実施する。

3. 研究の方法

本科研の研究体制は、データ収集班、データ評価班、システム構築班から成る。は、海外の研究協力者で、ライティングの書き手(学習者)を募集する。はパフォーマンス評価によって自動評価システム構築のためのデータを評価し、は人間によって評価されたデータから自動評価システムを構築する。

(1) ヨーロッパの学習者のライティング・サンプル収集

・海外研究協力者と国内研究者で、「比較・意見」「描写」「ナラティブ」のプロンプト(課題文と指示文)を作成する。予備調査を経て、本調査のプロンプトを決定した(3モード, 5プロンプト)。プロンプトは英語、フランス語、スペイン語、ハンガリー語にも翻訳する。

・ヨーロッパ10か国(フランス、ドイツ、ハンガリー、スペイン、イタリア、ベルギー、セルビア、スロベニア、クロアチア、ロシア)及びアメリカの学習者にオンラインの投稿サイト(Google form)で、SPOTの受験、A「比較・意見」から1つ、B「ナラティブ」「描写」から1つ選択してライティングを執筆、アンケートに回答してもらう。

・このようにして 11 か国から収集したデータ (Eu-data: 計 577 データ) から「Eu-data 閲覧システム」を作成する。このシステムでは、国籍・第 1 言語・SPOT 点数・プロンプト・文字数等から検索して、ライティングとアンケート回答結果を閲覧できるようになっている。

(2) 自動評価システム構築のための準備

・システム構築班は、学習者のライティングにデータ評価班がスコアを付与したデータを使用して、人間 (評価班) の付与するスコアを正しく予測できるようなモデルを推定するシステムを構築する。

・人間によるパフォーマンス評価では、ホリスティック評価、マルチプルトレイト評価の「目的・内容」「構成・結束性」「日本語」の 3 トレイト、計 4 つの評価点をそれぞれ 1~6 の 6 レベルで評価することに決定する。

・人間の評価結果を機械に学習させるためには、人間の評価が一致している必要がある。評価基準、評価方法を検討し、最終的に、「マルチプルトレイト評価基準」(田中・長阪, 2006/2013: <https://goodwriting.jp/wp/page-66/documents>) をもとに「評価用フローチャート」

(<https://goodwriting.jp/wp/system-flowcharts>) を作成した。評価はこのフローチャートを使用し、1 つのライティングを 3 名で評価した。評価点は基本的に中央値を採用し、2 点以上の差がある場合には、評価班全員でミーティングを行って決定した。

・評価に使用したデータは、「多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS) (611 編), TK-data (代表者の前科研のデータ: 212 編) 他で、計 1056 編である。精度を上げるために、手法の検討、データの追加、予測モデル構築のための言語素性の追加及び検討を行ったが、最終的には、データ数の少ないレベル 1 とレベル 6 を考慮し、レベル 1-2, レベル 3, レベル 4, レベル 5-6 の 4 レベルで自動評価判定をすることになった。

・最後に、I-JAS と TK-data を検証データとして用い、自動評価システムの精度を出した。

・以上のようにして開発したシステムは GoodWriting Rater と命名された。「比較・意見 (論証)」のライティングを入力すると、「自動評価の結果」、「テキスト情報」、「メタ言語ハイライト」が表示される。の自動評価の結果には「確信度」が付けられ、結果がどの程度確信のあるものか示されている。の「テキスト情報」では、総文字数や漢字率等の一般的な情報以外に、第 1 段落や最終段落が全体に占める割合等も示される。これは、序論・本論・結論のバランス等のフィードバックに活用できる。の「メタ言語ハイライト」では、使われたメタ言語を色で機能別に分類してハイライトする。メタ言語を見るだけでおおよその全体構成が分かり、学習者へのフィードバックが容易になる。

4. 研究成果

(1) オンライン日本語ライティング評価の教師支援ツール

オンライン日本語ライティング評価の教師支援ツール、GoodWriting Rater を完成させ、2018 年 12 月 2 日に公開セミナーを行い、一般に公開した。GoodWriting Rater は、科研のサイト GoodWriting.jp とリンクしている。GoodWriting.jp のトップページ (<https://goodwriting.jp/wp/>) には、以下の ~ が公開されている。

「自動評価システム」: 利用規約に同意して、「システム」にアクセスする。

「目的と使い方」: 「比較と意見 (論証)」のライティング (文字数: 400 字 ~ 1600 字) を入力する。「実行」をクリックすると、(A)自動評価の結果、(B)テキスト情報、(C)メタ言語ハイライトが表示される。それらの解釈や使い方が記されている。

「自動評価について」: GoodWriting Rater はロジスティック回帰を用いてスコアを予測する。予測モデル構築に使用した素性のリストが掲載されている。スコアの予測精度 (平均二乗誤差) は、ホリスティック (0.66) を除いては、それほど高くないが、これはデータ数による限界である。

「評価用フローチャート」: 「ホリスティック」及びマルチプルトレイト評価の「目的・内容」「構成・結束性」「日本語」、計 4 つのフローチャートが公開されている。これは「比較・意見 (論証)」のプロンプト用に作成されたものであるが、「ホリスティック」と「目的・内容」を修正、調整すれば、他のアカデミック・ライティングにも使用可能である。

「レベル別サンプル」: ホリスティック評価、マルチプルトレイト評価の 3 つのトレイト別に 1~6 のレベル別サンプルと、その解説が公開されている。

「レベル説明」: 自動評価の 4 レベルの説明 (descriptors) と、外在基準として J-CAT と旧日本語能力試験のレベルとの関係が記載されている。ライティングのホリスティック評価のレベルと J-CAT の総得点には相関が認められた (相関係数: 0.62)。

「利用規約」: 許諾の範囲、成果公表、対価、免責などが記されている。

「プロンプト一覧」: 「比較と意見 (論証)」のプロンプトの例が 4 つ (日本語、フランス語、スペイン語、英語、ハンガリー語訳) 載せられている。

以上のように、教師支援ツールは完成し、システムの使い方を説明するワークショップも海外で行いつつある。ベルギー教師会では、GoodWriting Rater に Eu-data からベルギーの学習者のライティングを入力して分析し、参加者と意見を交換する機会を得た。また、の「評価用

フローチャート」は本科研の副産物ではあるが、評価の一致度を上げるための有効な方法として評価され、既に数回ワークショップを実施している。

(2) 今後の課題

GoodWriting Rater の自動評価の精度を上げることは、ロジスティック回帰に基づく手法では学習データ数を大幅に増やさないと限り難しい。深層学習に基づく手法は大規模コーパスから学習した言語表現を用いて予測精度を向上させることのできる可能性はあるが、本プロジェクトの期間では検証することができなかった。したがって、現状のままで有効に活用する方法を検討するのが現実的であろう。今後の課題としては、以下が考えられる。

Eu-data (ヨーロッパの学習者のデータ：アンケート情報や SPOT データ等を含む) を活用した研究を行う。GoodWriting Rater を活用して、ライティングを分析する。
GoodWriting Rater を活用した教育や研究を行い、自動評価システムの有効性(限界も含め)について日本語教育界に発信する。
本科研では、「比較・意見(論証)」のライティングしか検討できなかったため、Eu-data の「ナラティブ」「描写」についても、研究を進める(新科研で継続予定)。
上記の研究を、国内の研究者だけではなく、海外の研究協力者で行う。

今後、自動評価システムに関しては、限界も明らかにしたうえでその有効性について日本語教育界に発信していく使命があるだろう。ライティングの大規模テストにも必須である。に関しては、データの条件を統制できれば、国や第1言語(母語)による比較研究が可能である。書き手(学習者)の国の教師と共同で研究することによって、その国の日本語ライティング教育や第1言語のライティング教育の影響等についても検討できる。さらに、CEFR に記載されているライティング能力との関係についても、共同で研究を進める機会が持てることを願う。

<引用文献>

Hamp-Lyons, L. (2007). Worrying about rating. *Assessing Writing* 12, 1-9.
McNamara, T. (2000). *Language Testing*. Oxford: Oxford University Press.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計20件、そのうち16件を以下に記載)

坪根由香里(印刷中)「9か月間の予備教育を受けた中国人日本語学習者の作文—構成・結束性を中心に—」『大阪観光大学紀要』第19号、査読有

中北美千子・山田真理・田中真理(印刷中)「プレゼンテーション実技科目における「トレイト別フローチャート」を利用したピアフィードバックの試み」『名古屋外国語大学論集』第5号 査読無

田中真理・阿部新・影山陽子・佐々木藍子・坪根由香里(2018)「ヨーロッパ日本語学習者のライティング(エッセイ)分析：総合的評価とマルチプルトレイト評価結果を参照して」『ヨーロッパ日本語教育 22』75-92, ヨーロッパ日本語教師会 <<https://eaje.eu/pdfdownload/pdfdownload.php?index=91-108&filename=panel-tanaka-abe-kageyama-sasaki-tsubone.pdf&p=lisbon>> 査読無

田中真理・坪根由香里・久保田佐由利(2018)「トレイト別フローチャートを用いたライティング評価：カナダ・アメリカにおける応用」*CAJLE 2018 Conference Proceedings*, 284-293. <https://www.cajle.info/wp-content/uploads/2018/09/33CAJLE2018Proceedings_TanakaMari-TsuboneYukari-KubotaSayuri_Final.pdf> 査読無

佐々木藍子・阿部新(2017)「日本語学習者のエッセイに見られる評価群別の言語特徴—IJAS におけるヨーロッパ学習者のデータを対象に—」『第三回 学習者コーパス・ワークショップ予稿集』32-37. 国立国語研究所, 査読無

田中真理・迫田久美子・野田尚史(2016)「日本語学習者コーパスにおける対話—ロールプレイ, メール, エッセイの分析を通して—」『ヨーロッパ日本語教育 20』102-119. ヨーロッパ日本語教師会, 査読無

田中真理・阿部新(2016)「Good writing とは何か - 評価を通して考える -」『2016年度 第7回 日本語教育学会研究集会 予稿集 <東北地区>』51-62. 日本語教育学会, 招待

田中真理・久保田佐由利(2016)「日本語アカデミック・ライティングに規範は必要ないか：「構成」面の分析に基づく提案」*CAJLE 2016 Conference Proceedings*, 263-274. <http://www.cajle.info/wp-content/uploads/2016/09/CAJLE2016Proceedings_33_TanakaMari_KubotaSayuri.pdf> 査読無

大山浩美・小町守・松本裕治(2016)「日本語学習者の作文における誤用タイプの階層的アノテーションに基づく機械学習による自動分類」『自然言語処理』23, 195-225. 査読有

田中真理(2016)「日本語教育の立場から L1, L2 双方向から考える日本語アカデミック・ライティング：「構成」面について」『図書』, 4.1, 134-153, Shobi Printing Co. Ltd.

田中真理(2016)「パフォーマンス評価はなぜばらつくのか?—アカデミック・ライティング評価における評価者の「型」」『図書』 第2章, 34-53, くろしお出版

- 阿部新・田中真理 (2016)「グループによるライティング評価における個人評価点の統一パターン」図書 第3章, 54-69, くろしお出版
- 坪根由香里・田中真理 (2015)「第二言語としての日本語小論文評価における「いい内容」「いい構成」を探る: 評価観の共通点・相違点から」『社会言語科学』18(1), 111-127. (社会言語科学研究会 第16回(2016年度)徳川宗賢賞 優秀賞 受賞), 査読有 DOI https://doi.org/10.19024/jajls.18.1_111
- 田中真理・久保田佐由利 (2014)「アカデミック・ライティングの構成について: L1, L2 双方向からの考察」CAJLE 2014 Conference Proceedings, 163-173. <https://www.cajle.info/wp-content/uploads/2014/09/Tanaka_CAJLE2014_Proceedings_163-173.pdf> 査読無
- 宇佐美洋 (2014)「外国人にわかりやすい文書」を書くための配慮—「やさしい日本語」の作成ルール」の効果とその活用—」CAJLE 2014 Conference Proceedings, 174-183. <https://www.cajle.info/wp-content/uploads/2014/09/Usami_Yo_CAJLE2014_Proceedings_174-183.pdf> 査読無
- 李在鎬・長谷部陽一郎・嵐洋子(2014)「日本語作文の熟達度を評価する指標の抽出」『第25回第二言語習得研究会(JASLA)全国大会予稿集』113-118, 査読無

【学会発表】(計30件, そのうち17件を以下に記載)

- 田中真理・坪根由香里 (2019 予定) ラウンドテーブル「人間と機械の『協働』によるライティング・フィードバック」CAJLE 2019 Conference, University of Victoria, カナダ
- 田中真理 (2019)「Good Writing について考える—オンライン・ライティング評価教師支援ツール, “Good Writing Rater”の活用—」ベルギー日本語教師会第106回勉強会 日本語教育セミナー, ルーヴァンカトリック大学, ルーヴァン, ベルギー, 2019年3月17日(招待)
- 田中真理・坪根由香里 (2019)「ライティング評価の統一を試みる—フローチャートの活用—」名古屋大学法政国際教育協力研究センター・名古屋大学国際言語センター主催, 名古屋大学, 2019年3月2日(招待)
- 影山陽子・田中真理・佐々木藍子 (2018)「欧州日本語学習者によるライティングのレベル別サンプル-ホリスティック評価とマルチプルトレイト評価から見る多様性-」, 日本語教育国際研究大会, ヴェネツィア・カフォスカリ大学, イタリア, 2018年8月4日 <<https://www.eaje.eu/media/0/myfiles/icjle2018/icjle-2018-book-of-abstracts.pdf>>
- 田中真理・坪根由香里・佐々木藍子・影山陽子・阿部新 (2018)「ライティング評価におけるフローチャートの開発: 評価の一致を目指す場合」, 日本語教育国際研究大会, ヴェネツィア・カフォスカリ大学, イタリア, 2018年8月3日 <<https://www.eaje.eu/media/0/myfiles/icjle2018/icjle-2018-book-of-abstracts.pdf>>
- Mari Tanaka (2018), 「Good writing とは何か: 評価を通して考える(What is Good Writing: Thinking through Assessment Practice)」, Japanese Pedagogical Workshop, Japan Studies & Dept. Asian Literature, University of Washington, WA, USA, Feb. 24, 2018 (招待)
- 田中真理・阿部新・影山陽子・坪根由香里 (2017)「スパッと決まる(!?) ライティング評価を目指して—フローチャートの活用—」, 第42回アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会, 東京大学・駒場キャンパス, 2017年6月17日(招待)
- 阿部新 (2017)「ヨーロッパにおける日本語学習者の日本語作文のテキストマイニング—その言語的特徴に関するパイロットスタディー—」, 東京外国語大学語学研究所定例研究会, 2017年5月24日
- 坪根由香里・田中真理 (2017)「私たちが研究してきたこと—その歴史と困難—」第16回(2016年度)徳川宗賢賞 優秀賞 受賞記念講演, 杏林大学井の頭キャンパス, 東京, 2017年3月18日(招待)
- 田中真理・阿部新 (2017)「パフォーマンス評価再考: Good Writing 評価を通して」日本語OPI研究会第2回勉強会, 東京, 2017年1月8日(招待)
- 田中真理・阿部新 (2016)「Good writing とは何か - 評価を通して考える -」2016年度第7回日本語教育学会研究集会, 東北大学川内南キャンパス, 宮城, 2016年11月26日(招待)
- 小平知範・梶原智之・小町守 (2016)「均衡コーパスを用いた日本語語彙平易化データセットの構築」言語処理学会第22回年次大会, 東北大学, 宮城, 2016年3月8日
- 阿部新・田中真理 (2016)「再考してみよう: パフォーマンス評価としてのライティング評価—どうやって統一する?・私の評価のスタイルは?—」, 「評価」を持って街に出よう出版記念シンポジウム, 東京大学駒場キャンパス, 東京, 2016年1月10日
- Tanaka M. & Kubota S., (2015) *Being a Good Writer in Japanese: Analysis of Japanese Academic Writing Organization from L1 and L2*, Paper presented at the 14th Symposium on Second Language Writing. AUT University, City Campus, Auckland, New Zealand. Nov. 21, 2015.
- 田中真理 (2015)「Good writing 教育について考える—プロンプトと評価基準—」ハノイ日本法センター・セミナー, ハノイ法科大学内名古屋大学日本法教育研究センター, ハノイ, ベトナム, 2015年3月15日(招待)
- 李在鎬・長谷部陽一郎・嵐洋子(2014)「日本語作文の熟達度を評価する指標の抽出」第25回第二言語習得研究会全国大会, 筑波大学, つくば市, 2014年12月14日
- Sayuri Kubota & Mari Tanaka (2014) *Organizational Problems of Japanese Academic Writing:*

【図書】(計5件)

Kyoko Oi, Beverley Horne, Masumi Narita, Yuko Itatsu, Mariko Abe, Yuichiro Kobayashi, Mari Tanaka (著)(2016), *ESL Writing in East Asia: Practice, Perception and Perspectives*, (261ページ) Shobi Printing Co., Ltd.

宇佐美洋(編)(2016)『「評価」を持って街に出ようー「教えたこと・学んだことの評価」という発想を超えて』(359ページ)くろしお出版

大関浩美(編著)名部井敏代・森博英・田中真理・原田三千代(著)(2015)『フィードバック研究への招待ー第二言語習得とフィードバック』(174ページ)くろしお出版

李在鎬(編著)(2015)『日本語教育のための言語テストガイドブック』(248ページ)くろしお出版

田中真理・阿部新(2014)『Good writing へのパスポートー読み手と構成を考えた日本語ライティング』(192ページ)くろしお出版

【その他】

<ホームページ等>

GoodWriting-jp 読み手と構成を意識した日本語ライティング: <https://goodwriting.jp/wp/>

GoodWriting Rater 日本語ライティングの自動評価(上記(1)の自動評価システム):

<https://goodwriting.jp/rater>

<“GoodWriting Rater” 完成公開セミナー>(2018)「日本語ライティング評価の支援ツール

“GoodWritingRater”の活用の可能性:「人間」と「機械」による評価の統合的活用」, 本科研

主催:阿部 新・影山陽子・佐々木藍子・田中真理・坪根由香里(企画)長谷部陽一郎(遠隔サポート), 東京外国語大学, 東京, 2018年12月2日

6. 研究組織

システム構築班には*を付す。それ以外の分担者はデータ評価班である。

(1) 研究分担者

阿部 新 (ABE, Shin)・東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・准教授・研究者番号: 00526270

坪根 由香里 (TSUBONE, Yukari)・大阪観光大学・観光学部・教授・研究者番号: 80327733

*長谷部 陽一郎 (HASEBE, Yoichiro)・同志社大学・グローバル・コミュニケーション学部・職名: 准教授・研究者番号: 90353135

*小町 守 (KOMACHI, Mamoru)・首都大学東京・システムデザイン研究科・准教授・研究者番号: 60581329

鈴木 陽子(影山 陽子)(SUZUKI, Yoko, (KAGEYAMA, Yoko))・日本女子体育大学・体育学部・准教授・研究者番号: 60366804

佐々木 藍子 (SASAKI, Aiko)・大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・プロジェクト非常勤研究員・研究者番号: 70622075

*李 在鎬 (LEE, Jae-Ho)・早稲田大学大学院・国際学術院(日本語教育研究科)・教授・研究者番号: 20450695 [2017年まで]

宇佐美 洋 (USAMI, Yo)・東京大学・大学院総合文化研究科・准教授・研究者番号: 40293245 [2016年まで(2017年は連携研究者)]

(2) 研究協力者

【国内】

仁科 喜久子 (NISHINA, Kikuko)

* Sirihattasak Sukan (タイ)

【海外】

[アメリカ] 久保田 佐由利 (KUBOTA, Sayuri)

[ベルギー] 櫻井 直子 (SAKURAI, Naoko)

[フランス] 東 伴子 (HIGASHI, Tomoko)

[ドイツ] 三輪 聖 (MIWA, Sei)

[ハンガリー] 佐藤 紀子 (SATO, Noriko), 若井 誠二 (WAKAI, Seiji)

[イタリア] 鈴木 正子 (SUZUKI, Masako), 中山 悦子 (NAKAYAMA, Etuko), 吉田 桃子 (YOSHIDA, Momoko)

[ロシア] 大田 美紀 (OTA, Miki), Anna Poliakova

[セルビア] Divna Trickovic

[スペイン] 鈴木 裕子 (SUZUKI, Yuko), 野崎 美香 (NOZAKI, Mika)

[スロヴェニア・クロアチア] Irena Srdanovic